

	<h1>福山平成大学</h1> <h2>FDニューズレター No.6</h2>	<p>発行：福山平成大学 FD推進委員会 〒720-0001 広島県福山市御幸町 上岩成正戸 117-1 084 (972) 5001 (代) fd@heisei-u.ac.jp</p>
---	---	---

目 次

平成 21 年度後期 学生による授業アンケート調査について(速報) -----	1
第 5 回「私の授業発表会」 -----	4
「学生による授業アンケート調査」に関するアンケート集計結果 -----	8
平成 21 年度FD講習会の開催 -----	10
FD推進委員会平成 21 年度活動記録 -----	11

平成 21 年度後期

学生による授業アンケート調査について (速報)

1. 調査概要

	平成 21 年度 後期
実施期間	平成 22 年 1 月 18 日～1 月 29 日
対象科目	演習・実習等の科目を除く、全 228 科目 (受講数 5 名未満の科目は含まず)
実施方法	科目担当教員が、授業時間中にアンケート用紙の配布、回収を行う
質問項目	下記の通り
実施科目数 (率)	205 科目 (89.9%)

◆質問項目

Q 1.	シラバス (授業概要) は、この授業の履修の決定や学習に役立った
Q 2.	受講にあたって、学習到達目標や注意事項などの説明・指導は、適切だった
Q 3.	この授業の進度は、適切だった
Q 4.	教員の話し方は、聞き取りやすかった
Q 5.	板書や視聴覚機器は、見やすかった (聞きやすかった)
Q 6.	教員の説明・指導は、わかりやすかった
Q 7.	教室や実習・実技の環境・設備などは、適切だった
Q 8.	この授業は、有意義だった
Q 9.	この授業にきちんと出席した
Q 10.	受講マナー (遅刻・早退、私語など) は守れた
Q 11.	予習・復習・課題提出など、この授業に熱心に取り組んだ

《補足説明》

- 1) 上記質問項目は、平成 21 年度前期調査と同じ内容
- 2) 上記質問について、「5. よくあてはまる ～ 1. 全くあてはまらない」の 5 段階評価を、マークシート方式によって回答してもらう
- 3) その他、担当者の自由設問及び、自由記述欄あり

2. 大学全体の結果

◆前回：平成21年度前期の回答総数と平均値

	5. よくあてはまる	4. ややあてはまる	3. どちらでもない	2. あまりあてはまらない	1. 全くあてはまらない	未回答	平均値
Q1	2459	2295	2765	331	219	6	3.80
Q2	2862	2800	1994	282	133	4	3.99
Q3	3140	2716	1689	359	163	8	4.03
Q4	3340	2539	1500	475	206	15	4.03
Q5	3045	2467	1749	525	282	7	3.93
Q6	3160	2501	1683	482	239	10	3.97
Q7	3183	2597	1863	282	144	6	4.04
Q8	3250	2419	1776	377	221	32	4.01
Q9	5202	1650	928	209	46	40	4.46
Q10	4414	2195	1167	203	54	42	4.33
Q11	3327	2119	2076	312	184	57	4.01

◆今回：平成21年度後期の回答数と平均値

	5. よくあてはまる	4. ややあてはまる	3. どちらでもない	2. あまりあてはまらない	1. 全くあてはまらない	未回答	平均値(かつこ内は昨年度同時期)
Q1	2111	1931	1847	174	127	4	3.92 (3.90)
Q2	2397	2132	1406	173	83	3	4.06 (4.11)
Q3	2562	2063	1263	214	85	7	4.10 (4.15)
Q4	2682	1953	1145	292	119	3	4.10 (4.14)
Q5	2532	1897	1340	276	140	9	4.04 (4.06)
Q6	2575	1971	1243	275	116	14	4.07 (4.12)
Q7	2592	1970	1389	154	79	10	4.11 (4.18)
Q8	2688	1907	1251	222	111	15	4.11 (4.15)
Q9	3746	1399	833	133	47	36	4.41 (4.39)
Q10	3189	1765	977	180	47	3	4.28 (4.30)
Q11	2600	1688	1499	243	113	51	4.04 (3.99)

◆大学全体の結果に対する寸評

全般的に、前期の平均値より向上しています。しかし、昨年度同時期と比較すると、わずかながら下まわっているようです。小数点以下第2位程度の数値に一喜一憂する必要もありませんが、上昇傾向にあった数値に歯止めがかかったことには違いありません。先生方のご努力にもかかわらず、授業改善の限界に達したのではないかというような、悲観的な見方を持つつもりは毛頭ありません。むしろ、今度はどれだけ上げられるだろうかという楽しみを持って、新学期の授業に臨んでいければと考えています。

(川久保和雄)

3. 各学部の結果（平均値のみ）

◆経営学部

	19年度後期		20年度前期	20年度後期	21年度前期	21年度後期
Q 1	3.83	Q 1	3.76	3.92	3.99	4.10
—	—	Q 2	4.03	4.17	4.16	4.23
Q 2	4.16	Q 3	4.06	4.22	4.18	4.29
Q 3	4.19	Q 4	4.08	4.24	4.17	4.26
Q 4	4.03	Q 5	3.98	4.16	4.09	4.19
Q 5	4.09	Q 6	4.03	4.20	4.12	4.22
Q 6	4.02	Q 7	4.08	4.25	4.20	4.24
Q 7	4.06	Q 8	4.06	4.19	4.15	4.25
Q 8	4.24	Q 9	4.26	4.29	4.42	4.41
Q 9	4.11	Q10	4.19	4.19	4.26	4.27
Q10	3.30	Q11	3.70	3.91	3.94	4.00

◆福祉健康学部

	19年度後期		20年度前期	20年度後期	21年度前期	21年度後期
Q 1	3.53	Q 1	3.68	3.89	3.78	3.86
—	—	Q 2	3.91	4.10	3.95	3.99
Q 2	3.88	Q 3	3.98	4.13	3.97	4.02
Q 3	3.94	Q 4	3.96	4.12	3.99	4.03
Q 4	3.82	Q 5	3.81	4.02	3.86	3.95
Q 5	3.88	Q 6	3.92	4.09	3.92	4.00
Q 6	4.00	Q 7	3.99	4.14	3.97	4.02
Q 7	3.84	Q 8	3.91	4.11	3.93	4.02
Q 8	4.32	Q 9	4.43	4.38	4.41	4.30
Q 9	4.12	Q10	4.31	4.32	4.32	4.22
Q10	3.09	Q11	3.82	3.99	3.98	3.94

◆看護学部

	19年度後期		20年度前期	20年度後期	21年度前期	21年度後期
Q 1	3.57	Q 1	3.75	3.88	3.72	3.90
—	—	Q 2	3.93	4.10	3.97	4.08
Q 2	3.96	Q 3	4.02	4.13	4.06	4.11
Q 3	3.96	Q 4	3.92	4.14	4.05	4.10
Q 4	3.88	Q 5	3.81	4.08	3.96	4.08
Q 5	3.96	Q 6	3.91	4.10	4.00	4.09
Q 6	4.13	Q 7	4.04	4.22	4.07	4.19
Q 7	4.07	Q 8	4.00	4.19	4.06	4.17
Q 8	4.61	Q 9	4.57	4.50	4.58	4.66
Q 9	4.35	Q11	4.35	4.34	4.40	4.41
Q10	3.31	Q11	3.87	4.05	4.09	4.28

第5回「私の授業発表会」

平成22年2月22日に、すっかり年中行事として定着した「私の授業発表会」が開催されました。今回は、看護学部2名の先生が発表され、工夫に満ちた授業の様子や報告と、お互いに参観した感想などの報告があり、多くの先生のご出席を得て、熱心な質疑応答もあり、充実した発表会になりました。

発表その1

心の健康 ～ストレスとうまく付き合う～

看護学部看護学科教授 岡 須美恵

1. 授業概要

科目名「心のケア」・1単位・30時間の必修科目で、看護学科1年生72名対象の講義形式の授業です。「心のケア」は心の働きとそのしくみ、また生物学的・心理的・社会的要因によって起きるさまざまな心の歪み、それらへの対応について学習することにより、人々の心の健康を保持・増進し疾病予防の為、また心の不健康状態にある対象者に対し、看護職者として、どのような「心のケア」を提供するのか、精神看護方法論について学ぶ授業の1コマ「ストレスとストレス対処行動」の授業です。



2. 授業での工夫

精神看護学概論・精神保健に該当する「心のケア」の授業は精神医学・心理学・社会学等多くの専門的な内容に普及し、1年次の学生にとっては聞きなれない専門用語で語られることが多い授業となっています。このことが影響してか一方的な講義形式の授業では、集中できない、それぞれ勝手な事をしている（私語・携帯電話・漫画本など）、講義内容が理解できていないなど授業効果が表れない状況があり、授業—学習方法に次のような工夫をしてみました。

「学生一人ひとりが授業に参加できたと実感できる授業」

- ①自分自身の体験を通して学習に結びつける。
- ②教員と学生の交流を図るため、教員が細かに教室内を移動しながら学生一人ひとりにマイクを向けコミュニケーションをとる。
- ③学生同士、課題について意見交換をしながら考えられるように、ワイワイガヤガヤ賑やかな授業をする。

「教材の工夫」

- ①使用するパワーポイントは、カラフルにイラストを多くして、学生の興味を引きつけるように作成した。
- ②配布資料は自分自身の現在の健康状況をチェックしながら興味を持って学習できるように作成（初期ストレス症状・慢性ストレス症状・社会適応評価尺度チェック表・A4サイズ4枚）記入をする。
- ③体験記録用紙を配布し、授業の進行にそって今までの自分の体験を振り返りストレス・ストレス対処行動について思い起こし記録する。

3. 結果

授業を通して、自分自身の現在又は過去にどのようなストレス症状を起こしたか、またそのストレス症状はどんなストレスが誘因となっていたかを考えることができたのではないかと思います。またストレス対処方法についても、友達の意見も参考にしながら色々な対処方法があることが学べたことが体験記録用紙から把握できました。この授業での学びから、自分自身の精神保健を、又看護の対象者の精神保健の維持向上へのサポートが出来ることを期待しています。

観察者コメント

岡先生の授業を拝見して

看護学部看護学科教授 門田 美千代

岡先生の授業を拝見して、学生達もストレス・ストレッサー等の言葉はよく日頃より耳にしておりましたが、先生の授業は、学生参加型の授業形態で進められ、授業を通して改めて正しく言葉の意味を理解することが出来ました。

先生が特に気を配られたのは、学生に日常生活、自分自身の生活とストレスの関係についてです。体験と関連づけて、自分の生活のストレスとストレッサー、また解消法などを学生自身に考えさせたことは、とても効果的であったと考えられます。

最後に授業を受けて、学生各自がストレスコーピングを具体的に考え、これからの生活に活かして行くとの授業後の感想に記載が有り、有意義な授業であったことを改めて感じました。

授業を拝見させていただき、私自身学生と共にストレスについて学ぶことができ、これからの人生にストレスコーピングを上手に取り入れた日々を送りたいと思いました。

学生と共に授業に参加できましたことを心よりお礼申しあげます。

発表その2

小児看護援助学 ～工夫を重ねて楽しめる授業に～

看護学部看護学科教授 門田 美千代

小児看護学領域の授業には、「子どもの成長と発達」（前期2単位 30時間）と「小児疾患及び発達障害」（後期2単位 30時間）があります。小児疾患及び健康障害を持つ家族への小児看護援助学として、臨床実習前の最終の理論的な講義・演習です。

授業で工夫した点

まず、効率的な時間配分を考えました。

小児看護援助学において習得しなければならない技術には演習が必要なので、全員が確実に演習を実施するためには、人員制限を必要とし、クラスを3グループに分け、さらに1グループを2～3人にしました。その上で限られた時間内に可能な、次のようなタイムテーブルでローテーションを組み込みました。

	1G	2G	3G
14:40～15:40	演習	GW	講義
15:40～16:40	GW	演習	GW
16:40～17:40	講義	講義	演習

I) 演習

演習は、「採尿」・「バイタルサイン」・「投薬」に区分し、この演習によって臨床の場で困らないようにするために2～3人で一組とし、必ず実習人形（児）にタッチさせ、技術の習得に努めました。



II) グループワーク

グループワーク(GW)は症例検討会とし、GWメンバー全員が活発に討議に参加するよう資料配付に配慮しました。各自が積極的に検討会に参加させるために、検討会に入る前に十分な資料と記録の仕方、検討事例についてのプリントを配布しました。

また、効果的で実り多い検討会とするために、役割分担(司会者・記録者・意見を述べる者など)を自主的に決め、B4のレポートにまとめて提出させました。

今回のGWは、指導者不在の中での検討会になることから、検討時間60分と短時間に看護倫理・症例の理解をそれぞれが意見交換する等、ハードなノルマを課しました。

B4の記録用紙には、GWのメンバー・記録者・司会者・発言者名及び発言内容が書かれ、最後にまとめが書かれていました。事前資料配付が功を奏したと思われます。



III) 講義

子どもの治療には不可欠のプレパレーションについての講義です。

講義では、理論的な概要を把握させて、次の演習・臨床実習に役立てるよう配慮しました。

子どもは、成長発育達過程で程度の差はあれ病気に罹ったり、予防接種を受けるなど、何らかの医療にまつわる経験をしいられます。その経験が一瞬の出来事であっても、子どもにとって嫌な経験になるか、プラスの体験になるかは、そのときに関わる医療者の態度によって大きく左右されます。医療と言う馴染みのない場で小児が経験するさまざまな嫌な経験を少しでも緩和させ、子どもらしく、子どもの意志を尊重したケアの一つがプレパレーションです。

プレパレーションは、子どもが必要としているとき、何時でも、何処でも、誰でもが行うことが必要であり、個々の子どもは、発育過程、年齢、性別、環境等によってプレパレーションの方法は異なってくるので、それぞれの場に応じたプレパレーションを展開することが大切なことを認識させ、細かい事例についてまで講義できないので、事例プリントを配布し、パワーポイントにてプレパレーションツールを紹介しました。

学生には、プレパレーションの必要性・重要性を理解の上、病院実習に望んで、子どもが安心して処置を受けられるような援助ができるよう講義を行いました。

授業後の反省点

効率的な時間の配分を考えた授業をと配慮したつもりでしたが、演習に重点を置き2～3人でローテーションを組み、1クラスを3GWに分割し、実習場への移動、講義・検討会と慌ただしい180分であったこと。もう少し落ち着いた授業をすれば良かったと反省しています。

指導者不在の学習はやはり不安です。提出物によりどのような討議がなされたかは判りますが、発言や、討議している生の姿が見えないのはやはり残念でした。

学生がプレパレーションの真の意味を理解し、何時、何処でもプレパレーションができる「子どもに心優しい学生になってほしい」との希望を持ってこの授業に望みましたが、時間不足もありプレパレーションの講義は、学生に十分理解できたかは、若干疑問を残したと思料されます。

最後に、FDの「私の授業」をさせていただき有り難うございました。

不十分で大変恥ずかしいことでしたが、このような機会はこれからの人生で再び無いことです。根っからの教師馬鹿で慣れない教材創り(パワーポイント)も苦慮しつつ、自分が楽しく学生も楽しく、笑いながら新しいことを学べる為に工夫しております。

P.S.

看護学科の場合、クラス単位の授業(講義)は人数に左右されませんが、演習・実習が組み込まれると、全員にマスターさせるためには大変なことなので、授業をサポートしてくださる要員の必要性を痛切に感じます。

観察者コメント

小児看護援助学 ～講義・グループワーク・演習の 3タイプの学習形態を取り入れた授業～

看護学部看護学科教授 岡 須美恵

1. 看護学教育での演習授業の重要性について

看護学の専門教育は講義→演習→臨地実習、講義→演習→臨地実習のサイクルが1, 2, 3, 4年次を通して、上手く連携して教育効果が上がると考えます。最近、看護教育において実践能力の育成が重要な課題となっています。即践力を備えた看護師を育成するには、講義もさることながら、学内演習でしっかり指導・教育をすることが重要となっています。授業参観をさせて頂きました「小児看護援助学」2コマ180分授業の重要性を実感いたしました。

2. 演習授業の工夫

門田先生の「小児看護援助学」は3年後期にはじまる小児看護学実習に向けての大切な演習の時間です。授業で講義・グループワーク・演習の3タイプの学習形態を取り入れた大変工夫されていた点について感心致しました。演習室に1度に73名の学生が入って演習できるスペースがないこと、演習では指導教員が多数必要であることなどの理由で、180分を講義・グループワーク・演習と60分ずつの3場面設定し、180分で全員が3場面の授業が受けられるように工夫されていました。

3. 3場面を見学しての感想

グループワーク

24名が3グループに分かれて、各グループに提示された症例についてグループワークがなされました。3症例ともに人間の生命、人間としての尊厳及び権利を尊重した看護者としての対応の在り方について考えさせる症例提示がなされていました。大変難しい課題であり、熱心に意見交換がされていましたが、グループワークでどんな意見交換がなされたのか、教員も参加して振り返りの時間が必要と感じました。

演習

24名が3グループに分かれて、バイタルサイン特定・採尿パック貼り・与薬（3方法）の3場面の演習がおこなわれました。演習に必要な教材が手順良くきちんと準備されていて学生がスムーズに演習に入っていけるように配慮がなされていました。出来れば1場面に1名の教員が配置されることが望ましいと感じました。

講義

プレパレーションについての講義は、パワーポイントや医療器具・機械のミニチュアのモデルを使用して具体例を提示しながら理解しやすいように教授されていました。門田教授の持ち前である、にこやかな笑顔と明るい口調と、全身を使つての説得力ある講義に学生が引きつけられ、とても熱心に参加していたのが印象的でした。

「学生による授業アンケート調査」に関するアンケート集計結果

昨年12月から今年1月にかけて、先生方を対象に行ったアンケート結果がまとまりましたので、その概要をお知らせいたします。お忙しい中、多くの先生方にご回答いただき、ありがとうございました。

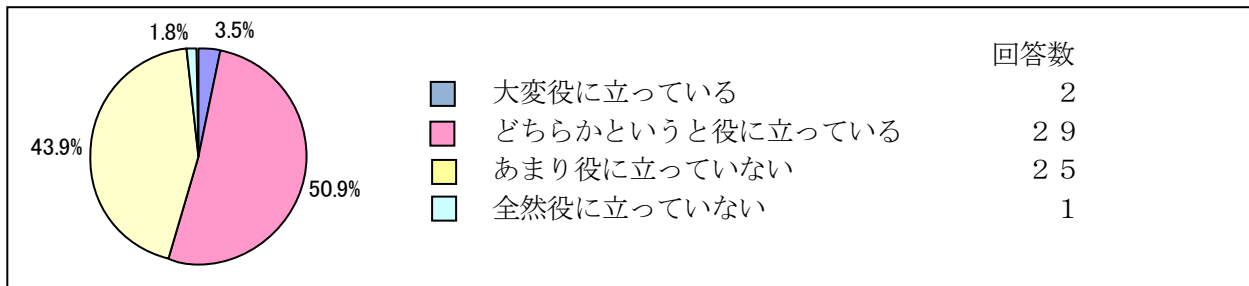
先生方の「学生による授業アンケート調査」に対する意識がよくわかり、大変参考になりました。この結果を踏まえて、今後の授業アンケートの内容や実施方法などを検討していきたいと考えています。

実施期間：平成21年12月17日（木）～平成22年1月22日（木）

対象者：講師以上の専任教員 65名

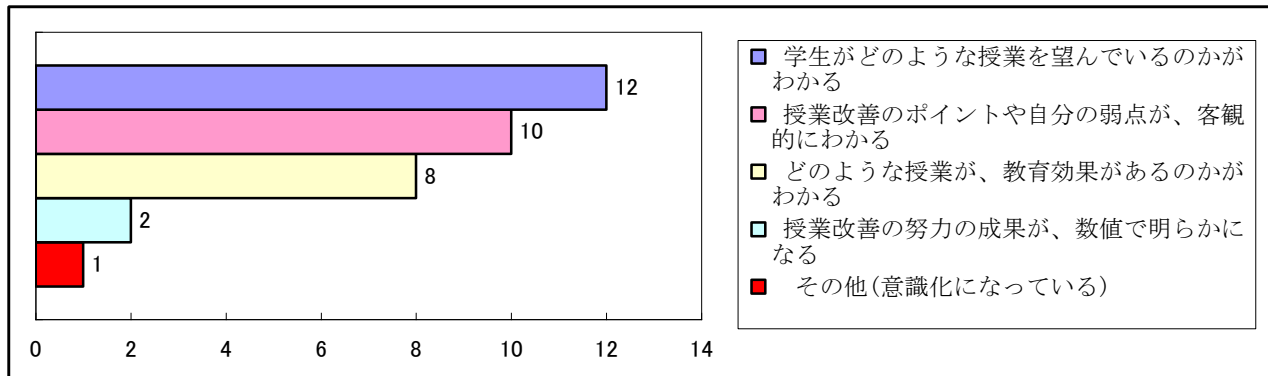
有効回答数(回答率)：57件 (87.7%)

1. 授業アンケート調査が、教育活動に役に立っているとお考えでしょうか。



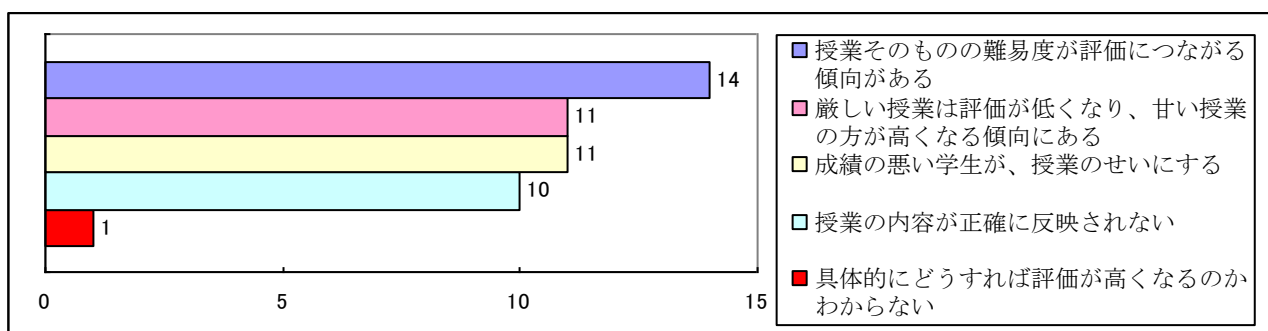
授業アンケートの有用性について、過半数の方が肯定的に評価されているということがわかりました。

2. 1.で「大変役に立っている」「どちらかという役に立っている」とお答えの先生におたずねします。具体的にどのような点で役に立っているとお考えでしょうか(複数可)。



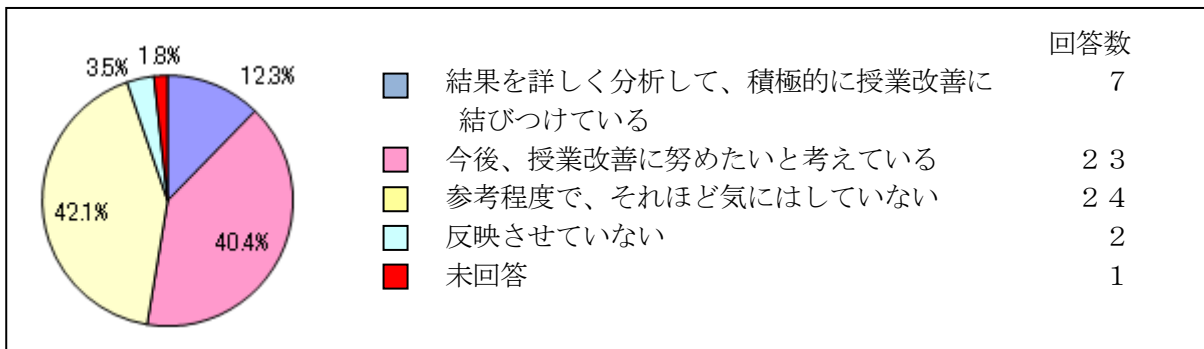
授業アンケートを有効に活用していただいているご様子が伺えます。

3. 1.で「あまり役に立っていない」「全然役に立っていない」とお答えの先生におたずねします。授業アンケート調査が役に立たないと思われるのは、どういう理由でしょうか(複数可)。



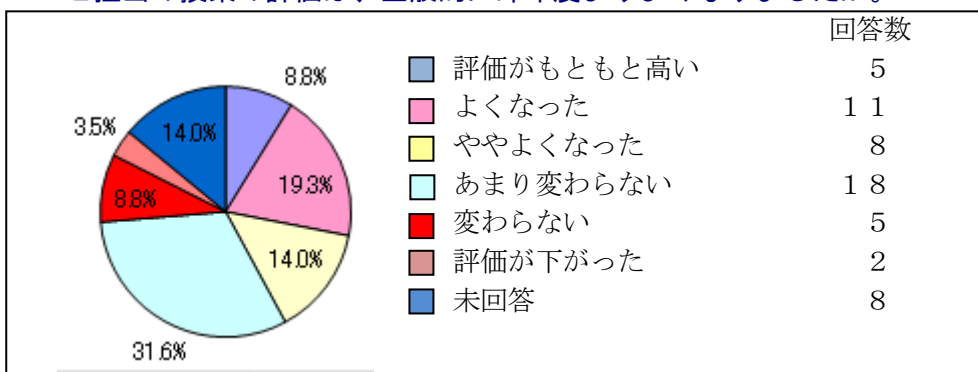
この他に、「態度のよくない学生が低い評価をつける傾向がある」という意見が数名ありました。

4. 授業アンケート調査の結果を、教育活動に反映させておられるでしょうか。



過半数の方が、授業アンケート調査の結果を重視されているということがわかりました。

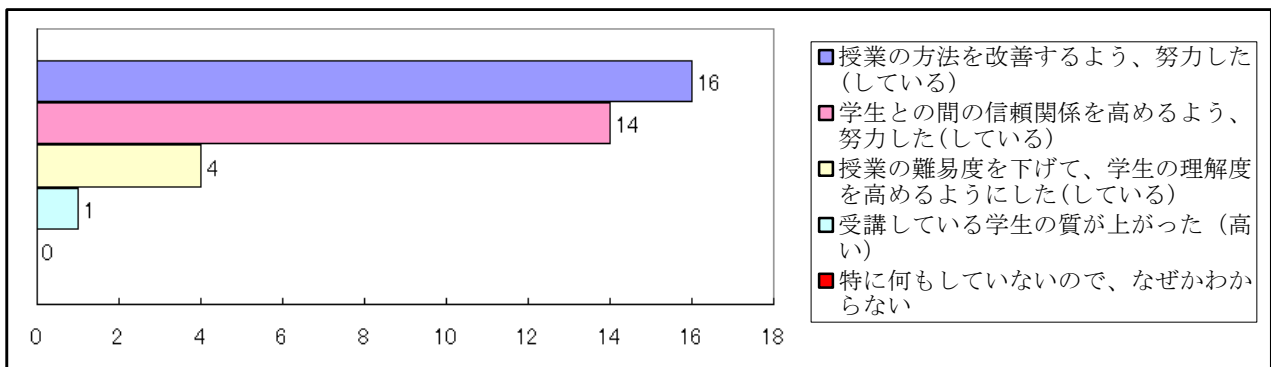
5. ご担当の授業の評価は、全般的に昨年度よりよくなりましたか。



授業評価が昨年度より「よくなった」「ややよくなった」「もともと高い」の回答より「あまり変わらない」「変わらない」「評価が下がった」の回答の方が、少し上回りました。

「未回答」は、今年度着任された先生方で昨年度実施していないので比較できない方と考えられます。

6. 5. で「評価がもともと高い」「よくなった」「ややよくなった」とお答えの先生におたずねします。その理由はどうお考えでしょうか(複数可)。

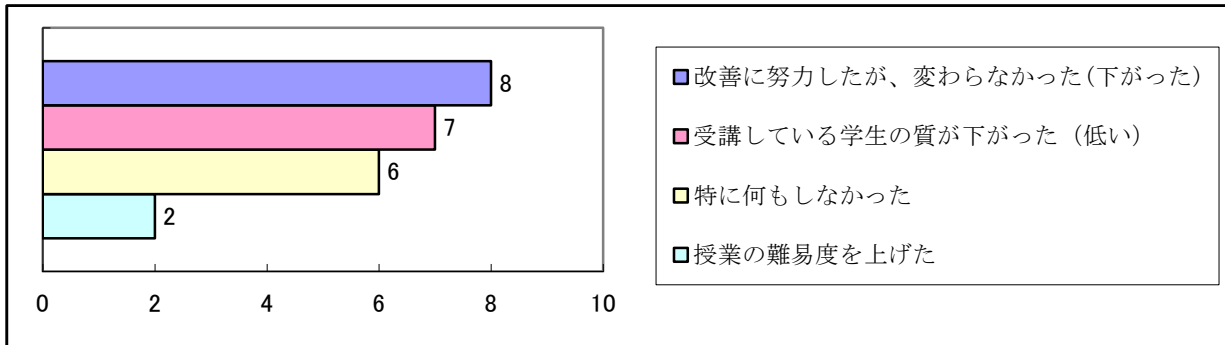


授業の難易度を下げるより、授業方法の改善や、学生との信頼関係の向上の方に、より力を注いでおられるご様子が伺えます。

7. 6. で「授業の方法を改善するよう、努力した(している)」とお答えの先生におたずねします。具体的にどのようなご努力や工夫をされた(している)か、もしよろしければ、お教え下さい。

- ・ 授業中たいくつしないように学生に作業させる時間をふやした。
- ・ 学習内容に関する項目について体験談を入れて学生(の)関心をひいた。
- ・ 授業内容の理解や板書しやすくなるようプリントを用意した。
- ・ 毎回ミニテスト(5分間程度)を実施した。 他

8. 5. で「あまり変わらない」「変わらない」「評価が下がった」とお答えの先生におたずねします。その理由はどうお考えでしょうか(複数可)。



「評価が変わらない(または、下がった)」方は25名なので、その中の約1/3の方が授業改善に努力されているということになりました。

9. 8. で「改善に努力したが、変わらなかった(評価が下がった)」とお答えの先生におたずねします。具体的にどのようなことをされたか、もしよろしければお書き下さい。

- ・大切な部分はくり返し説明することにした。
- ・講義の進行を少しゆっくり目にした。
- ・講義内容をていねいに分かりやすい表現にした。 他

10. 今後の授業アンケートについて、自由にご意見をお書きください。参考にさせていただきます。

- ・一方的な授業ではいけないと考えているので、学生の意見・評価はきちんと受けとめ改善していきたいと思っている。全体の評価がみられるので授業アンケートは続けていって欲しい。
- ・とりあえず続けてみて数年後の変化をみてどうするか判断すべきと思う。
- ・どこまで教育効果と学生の要望の差を認めていくことができるのかむずかしい。
- ・アンケートの匿名性を高めてほしい。
- ・ふざけて取り組む学生もいて、意味がない。
- ・改善内容を公表してもよいのではと思いました。 他

(川久保和雄)

平成21年度FD講習会の開催

平成21年8月7～8日、及び10月31日に、経営学部の福井正康教授によるFD講習会「統計講座」が、本学コンピュータ教室で開催されました。

このFD講習会は、授業改善と研究への活用を目指して、毎年福井先生が取り組んでいただき、学内外の受講者から大変好評を得ています。今年度は看護学部の先生など6名の参加者があり、福井先生の明解な説明と、パソコンを使った演習形式で、受講生からも活発な質問が相次ぎ、有意義なFD講習会になりました。

平成22年度にもFD講習会を企画する予定ですので、ぜひ多数の方の参加を、心からお待ち申し上げます。



FD推進委員会 平成21年度 活動記録

平成21年 5月12日	平成21年度 第1回委員会 議題 1) 平成20年度活動内容について 2) 平成21年度活動予定案 3) その他
7月6～17日	平成21年度版 学生写真台帳CDを全教員に配布(貸与) 学生による授業アンケート調査(前期)
7月29日	平成21年度 第2回委員会 議題 1) 合同FD研修ワークショップについて 2) その他
8月7～8日	FD講習会「統計講座(基本統計)」講師: 福井正康(経営学科)
8月25～26日	第6回 福山大学・福山平成大学FD研修ワークショップ (於: 宮地茂記念館) 参加者 田村直樹、尾崎 誠(以上、経営学科) 豊山大和、樋口美智子(以上、福祉学科) 森下浩子、水内恵子(以上、看護学科) スタッフ 川久保和雄、大中 章、沖増英治(以上、FD推進委員) 三好 宏、芝田全弘(以上、経営学科)
10月31日	FD講習会「統計講座(基本統計)」講師: 福井正康(経営学科)
12月3日	平成21年度 第3回委員会 議題 1) 授業アンケートについて 2) その他
12月17日 ～1月21日	「学生による授業アンケート調査」に関するアンケート調査 (教員対象)
平成22年 1月18～29日	学生による授業アンケート調査(後期)
2月10日	平成21年度 第4回委員会 議題 1) 福山大学との合同FD研修ワークショップについて 2) 「私の授業」について 3) 「学生による授業アンケートに関するアンケート」の結果について 4) FDニューズレターについて 5) 来年度のFD活動について 6) その他
2月22日	第5回 私の授業発表会 発表者(1) 授業報告: 岡 須美恵、 参観報告: 門田 美千代 (2) 授業報告: 門田 美千代、 参観報告: 岡 須美恵
3月4～5日	第7回 福山大学・福山平成大学FD研修ワークショップ (於: 宮地茂記念館) 参加者 飯塚 勲、浦西秀司(以上、経営学科) 望月悦子(こども学科) 山下雅彦(健康スポーツ科学科) 中元万由美(看護学科) スタッフ 川久保和雄(FD推進委員)、三好 宏(経営学科)
3月31日	FDニューズレター第6号発行

編集後記 大変遅くなりましたが、FDニューズレター第6号をお届けします。皆様方のご協力を得て、無事発行することができましたことに、心よりお礼申し上げます。今後とも、FD推進委員会一同、微力ながらさらにいっそう活発なFD活動を進めていき、先生方の教育研究活動の一助になるべく、努力していく所存ですので、どうぞよろしくご願い申し上げます。(K. K)